

シルクロードの十字路に誕生した化粧皿とその文化の研究 —古代ガンダーラにおける化粧皿の誕生から終わりまで—

神戸芸術工科大学 芸術工学部

服 部 等 作

Large numbers of the Cosmetic Trays were found in Sirkap, Taxila, in the Greek/ Shaka/ Parthian/ Kushan city of the Crossroad of ancient Gandhara, now the boarderland of north-west borderlands between Pakistan and Afganistan, famous as crossroad of the Silk Road. They were excavated from various levels ranging from the second century B.C. to the first century A.D. The compositions of the figure scene on trays generally depict Hellenistic myths, drinking scenes, amorous couples, sea monsters or animals, and they may be used in home use, ritual practices or ceremonies.

The micaceous schist at Gañdhara have no doubt products for import outside. This study refer to the trays under the influences from the hellenising and the nomad's similar products.

1 緒 言

化粧皿と呼ぶ石製の小さな皿がパキスタン西北部のアフガニスタン国境地帯にかかる紀元前後代に栄えた古代ガンダーラ地方の遺跡から出土する。皿の用途は、顔料に香油を加え皿上ですりつぶして室内の卓上に置き使用するとされてきた¹⁾。

一般的な化粧皿の直径は10数cm程、底面から上縁表面まで高さ数cm前後の浅い碗状の皿で削り易い現地産片岩や凍石^{注1)}で製作されるが、少数の板状やテラコッタ製²⁾化粧皿もある(図1)。

化粧皿の様式は、表面上縁から内側には複数の区画をもうけ、その区画中心、または重要な区画に主題となるテーマ、神話上の人物や怪獣などを浮彫で表現し、その残り1/4程の凹面に幾何学文(貝文)や花文で装飾して香料置きや顔料とバルサム油を混ぜる区画を持つ。

その区画された凹面を表面観察すると、刃物による線状痕がある反面、摩耗した状態まで様々であり色々な応用があったと考えられる^{注2)}。

化粧皿の底面は、ロクロで円弧状に成形した後、大部分が無文であるが、時に花文や幾何学文を線刻する例がある。

皿の表面には初期において西方のギリシャ神話テーマを浮彫りに採用しているにもかかわらず、ガンダーラ以西のヘレニズムから西アジアの文化圏にかけて化粧皿と直結するものがないため化粧皿の誕生から終わりまでには不明な点が多い。

本稿では、古代ガンダーラ地方に花開いた化粧皿について類似形態と技法を有する資料と共に化粧皿の誕生と終焉及びその文化を考察する。

2 化粧皿の特徴

2.1 化粧皿研究のはじまり

化粧皿の発掘調査は、ガンダーラの中核であったギリシャ人都市タキシラ・シルカップ遺跡でMarshallが行なった体系的な調査¹⁾での概説以外は少なく、化粧皿の多くが来歴不明のものに加え盗掘品が横行し化粧皿の解明を一層困難にしている。

シルカップ遺跡調査は、主にタキシラ平地部の中心地区の第Ⅱ-Ⅲ層について行なわれた。この層位に関する限り大規模かつ組織的に発掘され、各層から出土した中の化粧皿約40点(34点はタキシラ出土)の年代と図像を特定し、ギリシア人時代からクシャン時代にわたる文化変遷の様相：



Studies of Cosmetic Trays and Their Culture in the Crossroad of Silk Road -There Origins of Helenism influence into the Gandhāra-

Tousaku Hattori

Department of Arts and Design,
Kobe Design University



カラチ博蔵 NMK8502、片岩製、径 11.2cm
アポロンとダフネ^{1B)} - 表 1・35
A. ギリシャ人時代期



タキシラ博蔵 TM9500、凍石製、径 9.2cm
B. サカ前期・有翼海馬^{1C)} - 表 1・33



タキシラ博蔵 TM8480、片岩製、径 11.9cm
C1. パルティア朝・魚尾の海馬にのる男^{1D)} - 表 1・13



カラチ博蔵 NMK8473、片岩製、径 11.5cm
C2. パルティア風・葡萄酒をもつ男女像^{1D)} - 表 1・6

図1 化粧皿の図像と形態

少なくともパルティアの支配下で化粧皿がその最盛期を迎え、またヘレニズムの美術がタキシラで普及していた事を明かにした^{1A)}。

すなわち紀元前 337 年、マケドニアのアレクサンドロス大王がインドへ進出し、王の死後に部下達がガンダーラ地方で興したギリシャ人時代(紀元前 2 世紀～ 20 年頃)のタキシラ VI - V 層出土の化粧皿 2 点は、ヘレニズム風の表現をもつ^{1B)}(図 1 - A)。

一方でギリシャ人が接触した遊牧民族：南ロシアのスキタイ^{註3)}に加え、ユーラシア全体ではカザフ草原のサルマタイ、天山・アラタウ山脈の烏孫などが活躍していた。

現アフガニスタン北部の古代バクトリア^{註4)}(漢書で言う大夏)の遊牧民サカ族と西アジアからパルティア(安息国)の侵入によりギリシャ人王朝は滅亡し、インド・サカ(紀元前 80～紀元 25 年)、インド・パルティア王朝(紀元 25～60 年頃)のもとで化粧皿が最盛期を迎えた。

タキシラ IV 層サカ時代初期から III 層の後期の化粧皿 8 点は、遊牧民の動物・怪獣の特徴的図像が用られる^{1C)}(図 1 - B)。

次のインド・パルティア朝の II 層に化粧皿が最も多く出土する。西方ヘレニズムの文物を愛好した王朝がその美術を化粧皿などの石製彫刻にとり入れヘレニズムのテーマを復活している。

そのうち 18 点はアフロディーテーとディオニューソス^{注5)}等のヘレニズムの主題が復活し、内 5 点が饗宴図^{1D)}、3 点が騎獣図^{1E)}、7 点が動物・怪獣図^{1F)}、3 点が素文^{1G)}とサカ時代の純粋な動物図像を漸次圧倒する。タキシラ出土の化粧皿以外の美術にも本点は共通する(図 1-C)。

一方で中央アジアにいた遊牧民月氏族が蒙古の匈奴族の圧迫をうけて移住し小国に分裂(五翕侯)、その一部族がインド亜大陸中央部から西北部にまたがるクシャン朝(貴霜国)を興した。

この王朝初期に該当するタキシラ第 I 層は、最も広範囲に発掘されたが、化粧皿は 5 点^{1H)}が出土しただけで 1、2 世紀以降に確定できる化粧皿がない。この事からパルティア朝滅亡後に少なくともタキシラで化粧皿が衰退した事がわかる。

以上の点から少なくともタキシラ出土の化粧皿は、前 2 世紀ギリシア人時代に始まりサカ・パルティア朝時代を経てクシャン朝時代前半の 1 世紀まで約 300 年間程続いたと言えるが、ガンダーラ全体として、スワート地方のウデグラムやチャールサダ出土の化粧皿が浮彫りのテーマを変えつつ 4 世紀まで存続していた^{3A)}。

現在知られている化粧皿 162 例とそのテーマ内容を表にした(表 1)。そのうち化粧皿 98 例は、ほぼ正確に出土地を特定でき、また都市遺跡(タキシラ・シルカップ、ビール丘、スワート・ウデグラム、バリコト等)は、85 例である。テーマではディオニソスの祭祀の場面が 60 例で最も多く^{注5)}、神話動物の 39 例が次ぐ。タキシラの 33 例では、怪獣図が 20 例と圧倒的に多い(表 2)。

2.2 化粧皿の研究と問題点

Marshall の化粧皿の概説に Dar⁴⁾は、33 点に図像比較を加えを詳しく考証し次の点を明らかにした。まずギリシア人時代の VI-V 層に出土する化粧皿がタキシラで前 2 世紀中頃から初めて現われ、クシャン朝初期の 1 世紀頃の I 層に終焉をむかえるまで化粧皿の浮彫りがヘレニズム様にはじまり、土着の仏教にギリシャ・ローマの様式をも

つガンダーラ美術の先駆的な役割を果たした事、さらに化粧皿が現地産出の石材製によることから輸入品でない事を指摘した。

また Francfort⁵⁾は、化粧皿の材質を片岩、凍石、その他に分類し、さらに様式をヘレニズム、パルティア、中間型に体系化し、存続期間を紀元前 150~紀元 50 年頃までとした。

以上の各研究では、古代ガンダーラの化粧皿を歴史・図像検討の面で前進したが、浮彫りのテーマとなった肝心のヘレニズム世界とガンダーラを結びつける化粧皿の類似品の十分な比較がされず、化粧皿が交易品や所持品として西方からの流入品か、あるいはギリシャ風のテーマを装いガンダーラから西方に輸出されたものかは、依然未解明である。

さらにヘレニズム起源に固執するあまり、ギリシャ人に接触し東方ギリシャ様式を獲得した遊牧民の影響についてほとんど考慮されていない。

このため、ギリシャ周辺地域の様式も含めた化粧皿の技法：形態面、及び技術面について新資料を加えて検討する必要が残されている。

3 化粧皿の比較

3.1 形態面からの類似性

比較的加工が容易な陶器、石製品について化粧皿の形態面から類似のものを求め検討を進める。

まずギリシャ古典期からヘレニズム期に皿・碗状の内側を区画し、その主要部分に神話のテーマや装飾文様の描画、浮彫り表現は一般的である。

ギリシャでは、テラコッタ、陶器、石膏、石、青銅、ならびに貴金属などの多様な材料と広い応用分野がみられ、アレクサンダ大王の遠征後ギリシャの植民地となったガンダーラのタキシラ、サカ朝からクシャン朝にかけてのバクトリアのベグラム⁶⁾遺跡にも同様の分布例がある。

しかし、形態面からガンダーラの化粧皿に直結する物は、ギリシア本土から小アジアで例がなく、周辺地であるエジプト・ローマ統治時代のディスク⁷⁾、およびイラクのパルティア帝国ハトラの神

表1 化粧皿の一覧表^{1、4、5}より適用

| 番号 | 出土地 | 所収・登録番号 | テーマ | 材質直径 (cm) | |
|----|------|-----------------------|-----------------------|---------------|------------------------|
| 1 | タキシラ | TM69,SK26-2367 | 獅子にのるキュービッド | 片巻,径11.2cm | |
| 2 | 〃 | TM170,SK29-2292 | 有翼のマカラ | 片巻,径14.7cm | |
| 3 | 〃 | TM171,SK28-2400 | 獅子 | 片巻,径11cm | |
| 4 | 〃 | TM172,SK29-2223 | 断片 | 〃 | |
| 5 | 〃 | TM173,SK27-13 | 対向する獅子 | 片巻,径15.3cm | |
| 6 | 〃 | NM8470,SK28-2159 | 有翼の海馬 | 片巻,径11.5cm | |
| 7 | 〃 | TM8474,SK19-695 | 有翼の海馬 | 片巻,径10.2cm | |
| 8 | 〃 | TM8475,SK24-316 | 有翼の海馬 | 片巻,径11.25cm | |
| 9 | 〃 | TM8476,SK15-841 | 十字形分割人物なし | 片巻,径12.2cm | |
| 10 | 〃 | TM8477,SK12-1336 | 有翼の海馬 | 片巻,径12.1cm | |
| 11 | 〃 | TM8478,SK22-384 | 変化した有翼のマカラ | 片巻,径11.1cm | |
| 12 | 〃 | TM8479,SK13 (06A-60) | 有翼のグリフィン | 片巻,径12.9cm | |
| 13 | 〃 | TM8480,SK15-277 | 有翼の海馬 | 片巻,径11.9cm | |
| 14 | 〃 | TM8481,SK27-607 | 有翼のグリフィン | 片巻,径14.7cm | |
| 15 | 〃 | TM8482,SK29-306 | 海馬にししかける女 | 片巻,径13.8cm | |
| 16 | 〃 | TM8483,SK29-1138 | 有翼のマカラ | 片巻,径15.2cm | |
| 17 | 〃 | TM8484,SK29-394 | 有翼双頭のマカラ | 片巻,径12.5cm | |
| 18 | 〃 | TM8485,SK27-501 | 九分割人物なし | 片巻,径14.6cm | |
| 19 | 〃 | TM8486,SK27-1649 | 有翼海馬, 船尾 | 片巻,径15cm | |
| 20 | 〃 | TM8487,SK22-801 | 有翼のマカラ | 片巻,径15.2cm | |
| 21 | 〃 | TM8488,SK20-230 | 獅子 | 〃 | |
| 22 | 〃 | TM8489,SK29-2285 | 断片 | 片巻,径18cm | |
| 23 | 〃 | NM8490,SK20-763 | 有翼の海馬 | 片巻,径17.4cm | |
| 24 | 〃 | NM8491,SK28-1776 | アリアドネーの結婚 | 直径15.5cm | |
| 25 | 〃 | TM8492,SK12-814 | 二人の女と踊る男 | 片巻,径13.4cm | |
| 26 | 〃 | TM8493,SK2 (06A-60) | 有翼のグリフィン | 片巻,径14.2cm | |
| 27 | 〃 | TM8494,SK29-2572 | 死者の宴 | 片巻,径13.5cm | |
| 28 | 〃 | TM8495,SK28-2530 | 〃 | 片巻,径12.5cm | |
| 29 | 〃 | TM8496,SK27-501 | 有翼の獣と有翼の人物 | 片巻,径15.3cm | |
| 30 | 〃 | TM8497,SK12-642 | 兎耳有翼の海馬 | 〃 | |
| 31 | 〃 | TM8498,SK28-635 | 有翼の海馬 | 片巻,径10.2cm | |
| 32 | 〃 | TM8499,Di15-613 | マカラと蛇頭のアモーン | 〃 | |
| 33 | 〃 | TM8500,SK29-2455 | 有翼海馬 | 片巻,径9.2cm | |
| 34 | 〃 | TM8501,SK28-763 | 海馬にのる半裸の女と観世 | 片巻,径8cm | |
| 35 | 〃 | NM8502,SK29-1849 | アポロンとタプネー | 片巻,径11.2cm | |
| 36 | 〃 | TM8503,SK28-1486 | 女に接吻する懐たる男 | 片巻,径10.7cm | |
| 37 | 〃 | TM5528,SK19-299 | 有翼海馬 | 〃 | |
| 38 | 〃 | TM5158,SK16-871 | 対向する獅子 | 〃 | |
| 39 | 〃 | TM5199,SK26-1825 | 〃 | 〃 | |
| 40 | 〃 | TM5211,SK27-937 | 十字分割人物なし | 〃 | |
| 41 | 〃 | TM(?)_SK_186 | 有翼の海馬 | 〃 | |
| 42 | 〃 | TMR gr. Sr. No. 58 | 4立像 | 〃 | |
| 43 | 〃 | MIBD | 海馬上で裸をもつ半裸女 | 片巻,径12cm | |
| 44 | 〃 | NMNo.1918-7_62 | 死者の宴 | 片巻,径12.7cm | |
| 45 | 〃 | TM_S5100,SK13-2135 | 断片 (船舶不明) | 〃 | |
| 46 | 〃 | TM_S5111,SK15-571 | 〃 (有翼の馬) | 〃 | |
| 47 | 〃 | TM_S5120,SK17-686 | 断片 (船舶不明) | 〃 | |
| 48 | 〃 | TM_S5128,SK19-299 | 〃 (有翼マカラ) | 〃 | |
| 49 | 〃 | TM_S5203,SK26-2230 | 〃 (獅子) | 〃 | |
| 50 | 〃 | TM_S5205,SK26-2367 | 〃 (獅子) | 〃 | |
| 51 | 〃 | TM_S5209,SK26-3132 | 〃 (人物上半身) | 〃 | |
| 52 | 〃 | TM_S5220,SK20-355/353 | 〃 (仔をもつ男女半身) | 〃 | |
| 53 | 〃 | TM_S5241,SK26-3545 | 〃 (船舶不明) | 〃 | |
| 54 | 〃 | TM_S5242,SK26-3857 | 〃 (馬) | 〃 | |
| 55 | 〃 | TM_S5292,SK29-1713 | 〃 (蛇頭のマカラ) | 〃 | |
| 56 | 〃 | TM_S5313,SK28-1679 | 〃 (立像2) | 〃 | |
| 57 | 〃 | TM_S5315,SK28-2860 | 〃 (船舶不明) | 〃 | |
| 58 | 〃 | TM_S5382,SK37-4444 | 〃 (海馬) | 〃 | |
| 59 | 〃 | TM_S_S5K13_1087 | 人物のある断片 | 〃 | |
| 60 | 〃 | India 邦道 12.4_49 | 断片 (獅子) (Sirkap) | 〃 | |
| 61 | 〃 | 〃 | 〃 (馬) | 〃 | |
| 62 | 〃 | NMA No 49 8 | 雄・裸の男女・男人の上半身 | 片巻,径12cm | |
| 63 | 〃 | 27-1, 37-1 | V.A.M. | 人物, 船舶不明 | 〃 |
| 64 | 〃 | 〃 | V.A.M. Neg. No. S1220 | 2人の女に交わられた裸の男 | Serpentine, 径不明 |
| 65 | 〃 | 27-1, 37-1 | S.M. UD 372 | 2頭立馬車の上の2人 | 不明, 不明 |
| 66 | 〃 | 27-1, 37-1 | S.M. UD 251 | ディオニューソス構図 | 不明, 不明 |
| 67 | 〃 | 27-1, 37-1 | IsMIO (Rome) | ミサラ構図 | 不明, 不明 |
| 68 | 〃 | 27-1, 37-1 | S.M. Dukara 5466 | マカラ様の有翼海馬 | 不明, 径16cm |
| 69 | 〃 | 〃 | S.M. | 女2人・男・キュービッド | 不明, 径55cm |
| 70 | 〃 | 27-1, 37-1 | BM 1930.12.9.1 | 有翼海馬 (647) | 片巻, 径12.5cm |
| 71 | 〃 | 〃 | BM1106 (1924年購入) | 有翼の海馬 | 〃 |
| 72 | 〃 | 〃 | PM1117M | 有翼グリフィンA | 片巻, 径14cm |
| 73 | 〃 | 〃 | PM989M | ディオニューソス構図 | 片巻, 径10.6cm |
| 74 | 〃 | 〃 | Lahore 巻巻庫? | ヴィーナスと少年 | 不明, 径6cm |
| 75 | 〃 | 〃 | V.A.M. S.695-1950 | アポロンとタプネー | 片巻, 径10.2cm |
| 76 | 〃 | 〃 | V.A.M. S.490-1950 | 海馬にのる男 | 〃 |
| 77 | 〃 | 〃 | V.A.M. S.71-1950 | 聖上の聖 (坐像) | 〃 |
| 78 | 〃 | 27-1, 37-1 | PM984 (715M) | 死者の宴 | 片巻, 径13cm |
| 79 | 〃 | 〃 | NMKS988M | 双子座アオスクローロイ | 片巻, 径11.05cm |
| 80 | 〃 | 〃 | DI 1973.6.18.1 | 10-12を囲む7人アプテ | Y.xoaporoa片巻, 径12.06cm |
| 81 | 〃 | 〃 | BM 1906.12.231 | 7人アプテ | Y.xoaporoa片巻, 径12.3cm |
| 82 | 〃 | 〃 | PM1188M (PM72) | 男に近寄る女 | 〃 |
| 83 | 〃 | 〃 | BM 1937.3.19.2 | 獅子の群の海馬にのる男 | Stesite, 径13cm |
| 84 | 〃 | 〃 | BM 1913.10.22 | 対向する獅子と牛 | Stesite, 片巻, 径10.3cm |
| 85 | 〃 | 〃 | Harm博 No. NK | 神々のついで | 〃 |
| 86 | 〃 | 〃 | PM1103M | バクシとオンパレー | 片巻, 径12.6cm |
| 87 | 〃 | 〃 | PM1107M | 獅子闘争 | 不明, 径11.8cm |
| 88 | 〃 | 〃 | PM113M | アキレスの死 | 〃 |
| 89 | 〃 | 〃 | PM1100M | 女の立像 | 〃 |
| 90 | 〃 | 〃 | カラキ古物商 | 酒杯をもつ男女 | 〃 |
| 91 | 〃 | 〃 | BM No.1929.1.19.12 | 獅子と牛の闘争 | 不明, 径15cm |
| 92 | 〃 | 〃 | BM No.1929.1.19.13 | 男2人の上半身 | 灰色片巻, 径10.4cm |
| 93 | 〃 | 〃 | BM No.1898.10.271 | 裸のバクシ | 片巻, 径13.3cm |
| 94 | 〃 | 〃 | BM No.1927.3.19.3 | 獅子の群の海馬にのる男 | 片巻, 径4.5inch |

| 番号 | 出土地 | 所在・登録番号 | テーマ | 材質直径 (cm) |
|-----|-----|--------------------------|----------------------|--------------------------|
| 95 | 〃 | BM No.1929.1.19.14 | 有翼の海馬 | 片巻, 径18.8cm |
| 96 | 〃 | BM No. ? | 猪 | 〃 |
| 97 | 〃 | V.A.M. S.5.3-1958 | 皿をもって海獣にのる馬 | 片巻, 径12cm |
| 98 | 〃 | V.A.M. S.64.1948.256 | 男女5人の立像 | 〃 |
| 99 | 〃 | アポロン長崎空博物館 | 人物一對・太陽の馬車 | 不明, 径10cm |
| 100 | 〃 | アポロン長崎空博物館 | 猪, 有翼の海馬と2立像 | 片巻, 径19.3cm |
| 101 | 〃 | V.A.M. No. ? | 帆立貝 | 〃 |
| 102 | 〃 | DM(?)Haughton 取巻 | 男女上半身 (抱き合う) | 〃 |
| 103 | 〃 | 〃 | マカラ彫刻にのる裸の女 | 〃 |
| 104 | 〃 | PUM.99-1氏蔵 | 海馬にのる女 | 〃 |
| 105 | 〃 | 〃 | 対向する2頭の獅子 | 〃 |
| 106 | 〃 | 〃 | 有翼の海馬 | 〃 |
| 107 | 〃 | LM No. G.339 | 断片 (セゾを打倒する?) | 〃 |
| 108 | 〃 | LM No. G.814 | 有翼の馬 | 〃 |
| 109 | 〃 | LM No. 815 | 飾物をして向かい合う馬 | 〃 |
| 110 | 〃 | LM No. 816 | 断片 (有翼の海馬をもつ男女) | 不明, 径不明 |
| 111 | 〃 | アポロン長崎空博物館 | 仔をもつ男女 | 〃 |
| 112 | 〃 | AMUM 69 132 | 獅子 | 〃 |
| 113 | 〃 | AMUM 69 133 | 断片 (チーム不明) | 〃 |
| 114 | 〃 | SLM | 蛇頭彫像の男 | 〃 |
| 115 | 〃 | NMT | 女 | 〃 |
| 116 | 〃 | DMNo. 1880 91 | 有翼海馬の断片 | 片巻, 径11cm(CXLI11-40 5×4) |
| 117 | 〃 | DMNo. 1939.1.19.11 | 獅子 | 片巻, 径9.7cm(PS230679) |
| 118 | 〃 | DMNo. 1945.4.17.10 | 〃 | 片巻, 径4.5cm |
| 119 | 〃 | DMNo. 1963.7.11.2 | 男女の供養者 | 片巻, 径10.5cm(PS230681) |
| 120 | 〃 | DMNo. 1967.20.21.1 | 〃 94と同じ | 片巻, 径12cm(PS295785) |
| 121 | 〃 | DMNo. 1967.2.21.2 | エロス | 片巻, 径11.5cm(K73097) |
| 122 | 〃 | DMNo. 1967.2.21.3 | 〃 | 片巻, 径5cm |
| 123 | 〃 | DMNo. 1971.5.17.1 | 〃 (獅子, 猪と戦士) | 片巻, 径13.7cm, 径152 |
| 131 | 〃 | LCM. M85-224.4 | 有翼の海馬 | 片巻, 径10.5cm |
| 132 | 〃 | LCM. M85-224.2 | 象と獅子 | 片巻, 径13.3cm |
| 133 | 〃 | LCM. M85-281 | 有翼の海馬 | Copper, 径9.9cm |
| 134 | 〃 | NWFP. MNAOR. M8713/0338 | 幼児を抱く2婦人の座像 | 片巻, 径17cm |
| 135 | 〃 | NWFP. MNAOR. 14850/19165 | 皿をもって海獣にのる女 | 女片巻, 不明 |
| 136 | 〃 | MNAOR. 8714 | 皿をもって海獣にのる女 | 片巻, 径不明 |
| 137 | 〃 | A.I.C | 女に接吻する懐たる男 | 片巻, 径14.7cm |
| 138 | 〃 | A.I.C | 王子文胸像と2供養者 | 片巻, 径12cm |
| 139 | 〃 | V.A.M. LS236-1960 | 2つとアプテ | 片巻, 径7cm |
| 140 | 〃 | V.A.M. LS232-1960 | 7707?アプテ | 〃 |
| 141 | 〃 | J.W. Aistodf蔵 | 海馬にのる仔をもつ女神 | 片巻, 径13.3cm |
| 142 | 〃 | MG No. 21 202 | 海馬 (ドラゴン) にのる女 | 不明, 径7.6cm |
| 143 | 〃 | MG No. 18575 | 太陽神スーリア | 不明, 径7.6cm |
| 144 | 〃 | PM113M | 男に近寄る女 | 片巻, 径10.9cm |
| 145 | 〃 | 不明 | 蔵不明 | 不明, 径不明 |
| 146 | 〃 | Samuel Eilenberg蔵 | アポロンとダブネー | 片巻, 径12.06cm |
| 147 | 〃 | Samuel Eilenberg蔵 | 獅子狩り | 片巻, 径14.5cm |
| 148 | 〃 | 米岡朝人蔵 | バクシとオンパレー | 不明, 径不明 |
| 149 | 〃 | 不明 | 4立像とオンパレー | 片巻, 径12cm |
| 150 | 〃 | 不明 | ディオニューソスと従者 | 片巻, 径13.5cm |
| 151 | 〃 | 不明 | 四神戦車と7人女神(4人) | 片巻, 径13.5cm |
| 152 | 〃 | 不明 | 地玉個入像 | 片巻, 径12cm |
| 153 | 〃 | 不明 | ディオニューソスと乗る男 | 片巻, 径12.2cm |
| 154 | 〃 | 不明 | 四人の女性像 | 片巻, 径15.7cm |
| 155 | 〃 | 不明 | 千葉個入像 | 片巻, 径15.5cm |
| 156 | 〃 | 不明 | 皿に乗る男子 | 不明, 径不明 |
| 157 | 〃 | V.A.M. S.60.1948 | 皿をもって海獣にのる女 | 片巻, 径12cm |
| 158 | 〃 | MIBD IC 34550 | 尊像像と供養者 | 不明, 径不明 |
| 159 | 〃 | 不明 | ディオニューソスと従者 | 不明, 径不明 |
| 160 | 〃 | O.A.M. No.260 AM | 聖徳と人間 (Hantle, 1987) | 733?片巻, 径不明 |
| 161 | 〃 | BM 1918.7-6-2 | 繁葉・従者と12?片 | 片巻, 径12.7cm |
| 162 | 〃 | BM 1918.7-6-2 | 繁葉・従者と12?片 | 片巻, 径12.7cm |

略称:
A.I.C: 古代イラン文化館, AMUM: エリツ大古博物館(米国), AOMT: 東京古代博物館(日),
BM: 大英博物館(英国), L.M.: ロサンゼルス博物館(1937), LCM: ロサンゼルス美術館(米国),
MG: キヤリフォルニア州博物館(1937), MNAOR: ローマ東洋美術館(1971),
NMA: W.R.Nelson美術館(米国), NMT: カラキ国立博物館(1937),
NMD: ニューゼaland国立博物館(1937), NMT: 東京国立博物館東洋館(日), O.A.M.: 2021?大学, 7?美術館(米国),
PM: シェンヤン博物館(1937), PUM: ベトナム大博物館, SM: スウェーデン博物館(1937), SLM: 東京美術館(米国),
TM: 東京国立博物館(1937), V.A.M.: ビクトリア・アルバート博物館(英国),
NWFP: 北西インド西境州

表2 化粧皿のテーマ^{1、4、5}より適用

| | | |
|----------------|-----|-------|
| A. ディオニューソスの祭祀 | 60例 | 22.0% |
| B. アフロディーネ | 31例 | 12.0% |
| C. 神話動物 | 39例 | 15.0% |
| D. 動物界 | 23例 | 8.5% |
| E. 太陽信仰 | 10例 | 4.0% |
| F. 幾何学・花文 | 26例 | 9.7% |
| G. そのほか | 58例 | 21.6% |
| H. 不明 | 21例 | 7.8% |

重複計あり 計 268例 100.0%

殿円板浮き彫り⁸⁾以外に見あたらない。

まず古王朝代の古くから儀式用化粧板(パレット)の伝統をもつエジプトにディスクと呼ぶ化粧皿⁷⁾があり、出土したアレクサンドリアは、アレキサンダー大王の首都となって以来、プトレマイオス朝では、インドまで知られる貿易経済の中心となり、紀元前30年以降のローマ統治下でも相互間の経済交流が増した交易の中心地である。

当時の経済関係のなかエジプトのディスクとガンダーラの化粧皿が同じ起源、あるいはガンダーラの皿をアレクサンドリア将来とする関係が取りざたされてきた⁹⁾。共通点を求めればディスクの材質が黒色片岩や凍石を使い、寸法形状もガンダーラより小型か同程度、テーマも人物肖像で共通性が見られ、二つ共に最盛期の後に消滅し、再び現れない点である。

一方で不一致点は、エジプトのには注ぎ口と浅碗キュリックスの影響によるのか二つ小さな把手を持つがガンダーラの化粧皿には共にない。また、エジプトのディスクの仕上げは研磨に緻密さをもつが、ガンダーラのは初期のヘレニズム風以降の化粧皿は、仕上りが荒々しい(図2)。

またタキシラやバグラム遺跡の宝物庫⁶⁾から出土した青銅ハポクラテース像^{6A)}、ヘラクレス-セラピス像^{6B)}、エジプト製のガラス^{6C)}、タキシラには、エジプト固有の神像ハポクラテース像やロータス文をローマのものと共に受容したにもかかわらず、エジプトではガンダーラのテーマはない。むしろエジプトのディスクのテーマは、エジプト風で鷲鳥に乗るハポクラテース、野犬に座す豊穡神とエロスなどエジプトのテーマの組み合わせ



大英博物館蔵 EA-38517、暗緑砂岩、径7.7cm
A. 集合場・婦人達とキューベツト⁵⁾



大英博物館蔵 EA-38516、暗灰色砂岩、径9.6cm
B. 鷲鳥に乗るハポクラテース⁵⁾

図2 エジプトの化粧皿風ディスク

せである。いずれにしても西方からガンダーラへの通過地で化粧皿への図像的影響は、イラン風のグリフィンがごく少数化粧皿に現れる程度であったことからエジプトのディスクをガンダーラの源流とするには矛盾がある。

エジプトのディスクの年代と用途を、Petrieが1~2世紀の鏡台の装飾具、Evansが4世紀頃の神酒の容器とし、共にローマ統治時代とする⁷⁾ことから、ガンダーラで化粧皿がサカ・パルティア時代以降の衰退期に、エジプトのディスクが誕生する点で同じく矛盾がある。

次にガンダーラ以西で化粧皿に酷似するのはパルティア朝(前1世紀~240年頃)ハトラ・パンテオン神殿出土の装飾浮彫り円板(イラク国立博物館蔵 IM-59033)がある⁸⁾。

「神々のつどい」をテーマに、上に向かって左端からヘラクレス立像、脇にヘラ女神を配したゼウス王座座像、向かって右端には右手を上にした裸体男子の集合場面を浮き彫りする。

皿内側に水平線で区画をもうけテーマを表現する点はガンダーラの化粧皿の寸法・形態・浮彫りが酷似する。登場人物像の筋肉や着衣の表現がヘレニズムの影響が濃厚で、象牙を精密に製作し調和のとれた構図と仕上がりは、ガンダーラやハトラよりも西方の製作、および祖先崇拜、宗教儀式との関係が想定でき献上目的か輸入品と考えられる(図3)。

同様にガンダーラの北辺にあたるバクトリアで紀元前2世紀のギリシャ人都市アイハヌームから化粧皿風の形態を有し凹面内側を区画した片岩製の碗と皿¹⁰⁾がある。しかしテーマとなる浮彫りがなく、直径は化粧皿のおおよそ倍にあたる20cm近くから化粧皿の半分以下の5cmまで、厚さもおおよそ数倍のものが多く一定せず、かぶせ蓋になるように上縁外側に段差を設けるなどの相違点から化粧皿以外の容器を想定させる。

以上前述したガンダーラの化粧皿との類似例以外の物は、ロードス式皿、および把手つき浅碗状のキュリックスの二形式、皿内側に水平線で区画し神話等の主題のテーマを描画表現する点が化粧皿と共通するのがヘレニズム圏に見当る程度である(図4)。

ロードス式皿は、大きい方の区画に絵を描き、下部は素文か花文や数本の川状線の装飾が化粧皿と共通する。相違点は、ロードス式皿の主テーマがホメロスの英雄場面や動物の絵画表現である。この伝統は前7世紀の方形構成に始まり円形メダイオン(飾り板)にも同一テーマを用いた後、円形に部分装飾し前5~6世紀頃まで継承される。

またキュリックスと共通するエトルスクの皿絵(ローマ・ピラジュリア美術館蔵 inv.23949)¹²⁾には、円形の枠内を水平に区画し上の区画側に戦象の上に騎乗する兵士達、をテーマに描く例がある。その手法は後述するバクトリアの古式のフィアレ



高さ 11.5cm、幅 12cm
ハトラの出土・イラク国立博物館蔵 IM-59033⁸⁾

図3 象牙型装飾浮彫り円板「神々のつどい」



ロードス式皿：大英博物館蔵 GR1860.4-4.1、

図4 化粧皿との類似性¹¹⁾

(円盤)^{3B、3C、13A)}と、化粧皿と同一表現を持ち、西方の表現方法、テーマが共にバクトリアに伝播した実例である。

上記のロードス式皿と浅碗状のキュリックスの内側の描画表現は、紀元前3~1世紀中に次第に浮彫りを採用し、ギリシャのメガロス式碗、およびエトルリアのカレニア式浅い銀製円形フィアレ^{14、15A)}の浮彫りに多様化し発展する。

カレニア式皿は、型製円板(前4~前2世紀頃)

とテラコッタ製の灯油ランプ(前4～前2世紀頃)にも影響を与えた。カレニア式皿は、ロードス式皿と同じく扱うテーマがパーン、エロース、アフロディーテ等ほぼ同じく登場する。

ランプは、神話の登場人物が多様で、両型式共に3世紀のローマ時代までつづき、東のベグラム^{6D)}に至る。さらにテラコッタ製円板は、円板内側に主要な浮彫し、前4～3世紀頃まで続く。

浮彫装飾の後期には、1世紀後半～2世紀初期頃に大理石円板(オスシラ)がギリシャにある。大理石円板の中心に化粧皿と同じ浮彫の方法で彫像した後の残部が凹状となる様に両面を浮彫、一端を穿孔しディオニューソス祭には神殿門戸にかけ利用したとされる。

タキシラで同時期の化粧皿は、ガンダーラ美術における最も古い時期の彫刻に属するディオニューソスのテーマが多く、その銅像と共に美しいストッコのサテュロス頭部^{1L)}が、シルカップの寺院跡で出土し、ベグラムでもディオニューソス頭部^{6E)}が出土している。後にガンダーラ美術の盛時にあってもディオニューソスは仏教の諸テーマと並び多数現れ、その信仰が根強く継続していた。

この大理石円板を石膏製の複製品にしたヘレニズム風のがベグラム^{6F)}で多数出土するが、ガンダーラ化粧皿と反対に大きく、また化粧皿には採用されない単独像の表現でオスシラの代用と考えられる。

この他に2世紀前半頃の白大理石製の浅碗(パテラ・大英博物館蔵GR1805. 7-3.435)がローマ近郊ハドリアヌス帝別荘から出ている。鳶の葉と胸飾りの円形枠の中で踊る女性を表現し、化粧皿風である。この表現は、後述する銀製のキュリックスの浮彫り表現にも通じる。

最後に化粧皿が発展したインド土着の伝統を見ると、クシャン朝以前の釈迦の象徴表現として仏塔(パールフト¹⁶⁾・紀元前185～72年頃、サンチー¹⁷⁾・前72～25年頃など)の塔門、欄楯の円枠内側メダイオンにテーマが表現される。表現には、アケメネス朝ペルシャやギリシャの影響

を受けたテーマ内容もあるが、化粧皿がもつ携帯可能な寸法と異り独立分離できない構築物の外部装飾品であり、その比較は無理がある。

3.2 技術面からの類似性

化粧皿のように皿内側を水平線で区画し、鋳物の浅浮彫り、あるいは鍛金で打出しによりテーマを表現する技術も化粧皿と類似性がある。

鋳物では、紀元前4世紀頃のギリシャやエトルスクの銀貨がある。貨幣周縁には細かい列点文をめぐらし、またテーマは、化粧皿の盛期のサカ朝に最も多い有翼怪獣と同じ獣頭蛇尾^{18A)}や有翼海馬^{18B)}を用いる。金属の貨幣は型で製作される点で違うが、その型材料は、化粧皿と同じく石材でその仕上げ技術は共通する(図5-A、B)。

次に鋳物製銅柄鏡の蓋も化粧皿の装飾様式との類似性と化粧道具としての組み合わせからも関連性がある。

前5世紀からギリシャにおいて製作された鏡は、ヘレニズム世界を通じギリシャの東方の植民地であったベグラム、タキシラ^{1M)}まで広く分布する。鏡の図は、化粧皿と同様にディオニューソス、エロスやアフロディーテが登場する。

紀元前3世紀前半に製作されたエトルリアの鏡蓋(ローマ・ビラジュリア美術館蔵inv. 51391)¹⁹⁾^{15A)}は、上面に像を表現し、裏面は同心円の刻文とする化粧皿の製法と似るが、化粧皿との相違は材質が金属と開閉の蝶番が付く点である(図5-C)。

次に、鍛金で裏側から打出した後に表面から毛彫りした後鍍金により表現する打出し加工技術は、陶製キュリックスの描画表現を源流にするメガロス式碗、およびエトルリアのカレニア式銀製フィアレ^{15B)}にもつながる(図6-A)。

その典型例は、碗の内側にギリシャ神話にあるオンフォロス(臍)を中心に打ち出し、その周囲に草葉文を浮彫りし幾重もの同心円状の輪の中に線彫^{15C)}、または打出しでテーマを表現する^{15D)}。

一方で紀元前7世紀頃のエトルスクのフェニキ



A. 獣頭蛇尾銀貨^{18 A)}

B. 有翼海馬銀貨^{18 B)}

ローマ・ビラジュリア美術館蔵
inv.51391
C. 鏡の蓋¹⁹⁾

図5 化粧皿との類似性—エトルスクの金属工芸から—

アン式銀鍍金碗や4世紀頃のカレニア式フィアレはオンフォロスが無い場合^{15B)}は特に化粧皿に近似し、碗の内側に幾重にも円形の枠を設け、その中心に化粧皿と同じ区画をもちテーマを浅く打出し、周囲に様々な図像を表現する^{15E)}。

前3世紀頃以降はオスシラのように単独肖像を高浮彫り表現する皿^{15F)}も現れる。後には円形の枠内に区画を設け、主要なテーマの表現^{15G)}をするが、特にヘレニズム期の銀製フィアレには、アケメネス朝ペルシャの影響を持つ様式も現れ^{15H)}、儀式用で1世紀前半頃とされるヘラクレスの毛皮の上に寝るオンファレーを表現するフィアレは、後述するサルマタイ王墓のものと同類で、これら銀碗のギリシア神話テーマは化粧皿同様にほぼ全体に及ぶ。

メガロス式碗のテーマはガンダーラの化粧皿と同じディオニューロスやアフロデティーが登場し、カレニア式フィアレは器の中心にギリシア神話のほぼ全体に及ぶ1ないし複数人物、または神獣を、全体には複数の円形枠の中に配置する。

1世紀頃のサルマタイ王墓(ロストフ博物館蔵 KP2544 / 13 - 17)出土の銀製フィアレ²⁰⁾は、遊牧民の墓にも関わらずヘレニズムの東方様式を完備した埋葬品で化粧皿と同じ寸法、形態、特徴を持ち中心部に主題となるモチーフを打ち出し、周縁の装飾を毛彫する(図6-B)。



A. カレニア式フィアレ^{15 A)}
ローマ・ビラジュリア美術館蔵



B. サルマタイ王墓出土フィアレ・エロスとプシュケ^{20 A)}

図6 化粧皿との類似性—古式フィアレから—

出土した8枚の内6枚の銀製大杯は、縁取りにガンダーラの化粧皿、ギリシャの銀製フィアレに頻繁に用いられる草葉文様をもち、中央部に打出されたギリシャ神話テーマはエロスとプシケ^{20A)}、海馬やトリトンにのるネレイデス^{20B)}、ならびに葡萄収穫^{20C)}の神話テーマで円形メダイオンに精巧に表現し、追悼供養容器とされる^{20D)}。

同時に出土した金製ファレラ(円形の飾り板、胸飾、馬の額飾)と銀鍍金の沐浴用容器(ルテリオン)は、すべてヘレニズム様式に属し、紀元1世紀の末頃と考えられるこの古墳の埋葬時期から、これらの銀製大杯が埋葬時より様式上は古く、化粧皿と同時代のものである事、及び前述した銀製ファレラ^{20、15A B)}との類似性がわかる。

古代バクトリアのアムダリア流域でオクサスの遺宝と呼ぶ金属盤も化粧皿との関連を考慮する必要がある。盤内側の大きい方の区画に以下に述べる多様なテーマを表現、他の区画は素文、その外周は草葉文で装飾し化粧皿と共通する。

まずガンダーラの化粧皿にはない騎象をテーマに表現した一連の古式ファレラ、エルミターージュ美術館蔵 S565^{13A)}、大英博物館蔵^{3B、3C)}がある。

紀元前3～2世紀頃の古式ファレラからエルミターージュのは、兵士の兜がセレウコス朝風、鞍の鞍覆はタキシラを始めガンダーラ化粧皿に度々見る蛇尾の海獣と同類でエトルスクの貨幣やヘレニ

ズム世界からの明らかな影響がある(図7-A)。

また突き棒を持つインド人象使いの表現は、西方(古典)的と東方的な要素が共存するいわゆるグレコ・バクトリア風美術に属し、前述した騎象兵士を描くエトルリアの壺絵と材質以外の表現で共通する。

同じ騎象のテーマで二つある大英博物館蔵 OA 1937.3-19.5.のは化粧皿の特徴、皿内側を区画しテーマを表現、周縁には蓮華文様を配する。これはインド仏塔欄楯の様式を小型で金属仕様にしたもので、前述ファレラ^{20B)}を典型的なインド風に表現したキシラの化粧皿^{1N)}と共通する(図7-BC)。

他に龍文のファレラ(エルミターージュ美術館蔵 S550)^{13B)}は、周囲を列点文と渦文帯で縁どりし、中央には、猛禽の嘴、尖った耳、猛獣の脚をもつ有翼龍が、輪形に表わされている。裏面には、皮紐を通す鉦や鋌留め痕がある。このファレラは、技術、寸法、裏面に付けた鐙の位置、ならびに文様からも、前述の戦象文のファレラ、さらにはエトルスクのカレニア式フィアレ^{15B)}の外周に縁どられた蛇文への関連性がある。

以上あげたバクトリアと化粧皿との類似例は、アレキサンダ大王の死後、ギリシャ人の子孫が興したセレウコス朝代に西方のシリアやギリシャ人と接触した遊牧のスキタイを含めたヘレニズム世



エルミターージュ美術館蔵 S565
A. 騎象図・1^{13A)}



大英博物館蔵 OA 1937.3-19.5
B. 騎象図・2^{3B)}



エルミターージュ美術館蔵 S550
C. 龍文図・3^{13B)}

図7 化粧皿との類似性—ファレラから—

界からの流入品、または現地製としても、前3世紀頃バクトリアからガンダーラにかけてに住んでいたギリシャ人の子孫が精密に加工表現できる金属を基盤にガンダーラの化粧皿の製作するための移行期間があったことを示している。

4 化粧皿とその文化

4.1 化粧皿の終焉

ここで化粧皿のまとめと終りについて述べる。製作にたずさわったギリシャ人を含めた西方からの職人達は、地理的にギリシャの東の果てバクトリアのアムダリア河畔アイハヌームやガンダーラのタキシラといったギリシャ人都市に生活し、グレコ・バクトリア美術を担う伝統の製作法、テーマの表現様式などの知識を持って製作活動をした。

ここでは化粧皿と同じ様式として皿の内側を区画し主テーマを表現する様式と浮彫り技法の伝統が存在していた。内側を装飾する手本は、ロードス式皿の描画があった。円枠内に区画を設け、そのテーマを浮彫し周縁を装飾する技法は、フィアレ、キュリックスから応用ができた。

しかし化粧皿の盛期であったインド・サカ、インド・パルティア朝のもと、少なくともタキシラの初期のギリシャ人時代においても、結果的にはロードス式皿、フィアレを流用する化粧皿も作らず、精密で高級な表現が可能な貴金属、金属による打ち出しや象牙材料にも手をださなかった。何より扱いやすく加工が比較的簡単なうえ量産や急造に応じることが出来る現地の片岩を積極的に用い、簡単に携帯、運搬可能な重量寸法を、さらに浮彫りのテーマにも支配王朝毎の文化をためらわずに採用したのである。

即ち初期のヘレニズムの面影が強く残る化粧皿は、少なくとも緻密な加工・仕上がりを求め黄色がかった凍石などを使い緻密に製作した。当時の石彫技術に化粧皿と同じく石を使った貨幣の型製作、例えばインド・ギリク朝最後のヘルマエオス王貨幣、の仕上がりにおいてすら、初期の化粧皿の緻密な仕上がりに共通性がある。

ギリシャ人時代が衰える一方、遊牧民族のインド・サカ朝、インド・パルティア朝のもと遊牧民が持つ伝統にもかかわらず領地における古くからの習慣を容認し、化粧皿が最盛期を迎えた。

その証拠は、遊牧民の神器^{註6)}の一つである杯においてもギリシャ神話の図像と共にヘレニズム風のフィアレ¹³⁾を用い、またガンダーラの化粧皿では、海洋の象徴の有翼海馬や蛇尾怪獣の図像、さらにディオニューソス、饗宴図などを加え、そのなかで遊牧民族の化粧皿の仕上げは、荒々しい動物・怪獣文のテーマと共に荒けずりな彫刻法に変化する。

ローマに対抗し覇権を競った西アジアのパルティアの美術では、ヘレニズム文物への傾倒から化粧皿のテーマは怪獣とともにディオニューソスが多く、この時代がもつバッカス的な風潮とも一致し、少なくともギリシャの東の領界にあるタキシラの化粧皿は、数量的にも最盛期をむかえた。

化粧皿の西方の領界が不明であるが、化粧皿の仕上がりの点から、エジプトのディスク及びハトラの化粧皿風の緻密な仕上がりに、明らかにガンダーラの質と異りそれらは輸入によるものではなく、現地製である事は明確である。

最後に少なくとも都市部のタキシラでは、化粧皿が急に衰退した。イラン系遊牧民族によるクシヤン朝の支配で、インド土着の節度ある仏教が当時の文化・意識を高揚し国際化しはじめた時期である。新たな勢力である仏教徒達は、仏伝図、あるいは単独の仏像表現に関心をむけガンダーラの仏教美術が本格化する。この新たな宗教美術活動の盛り上がりに対抗するため、伝統的な化粧皿を担ってきた主人公とテーマの関心が変化していたのである。

4.2 化粧皿の文化について

最後に化粧皿を利用した背景の文化を見たい。

バグラム遺跡から出土したインド様家具の象牙製装飾板に、ギリシャの鏡や化粧皿や道具をもち裸体で化粧する女性^{6G)}像がある(図8-A)。

図から古代インドでは、裸体の装いとして全身美容と衛生のため沐浴と共に化粧が意義をもち、女性が化粧皿、鏡、香料などを使って化粧していた事がわかる。

さらに化粧は宗教儀礼の一部に土着のシバ神信者らの想像を越す空隙嫌忌観から神聖で清浄と考える白檀の泥灰を塗付し邪眼を塗りつぶす魔除けの化粧が取り込まれていた²¹⁾。

それは、インド・グreek朝でギリシャ系のメナンドロス王(紀元前155～130年頃)と、仏教の高僧ナーガセーナとの問答が経典²²⁾のなかで



ベグラム遺跡出土象牙製裝飾板^{6G)}
A. 化粧する女性像



ブトカラ寺院遺跡出土²³⁾
B. 化粧皿と女性像

図8 化粧する女性像

額飾や眉間飾により邪悪を除く化粧観が示されていることからわかる^{注7)}。

タキシラでは少なくとも化粧皿が多く出土したのは寺院の密集地区であり、寺院から非仏教的な巨人を浮彫りした化粧皿が出ているためガンダーラの化粧皿が信仰との関連を無視できない。

この点に関してガンダーラのスワート・ブトカラ寺院(紀元前1～後3世紀頃)跡出土の化粧皿を使う女性のレリーフ²³⁾は、インド式アーチの下でターバンをつけた貴族風男性に寄りそうイラン風衣装の女性が化粧皿を使う光景が見いだせる。また化粧皿に酷似する裝飾板がハトラの神殿跡から発見されたことも、世俗から離れた装いと信仰との関係をによわせている(図8-A)。

あとがき

本研究では、関係各位から資料調査の協力と支援をいただいた。まず、財団法人コスメトロジー研究振興財団の研究助成のもとで大英博物館・貨幣メダル部、エジプト部、東洋部、ヴィクトリア&アルバート美術館東南アジア・インド部門、オクスフォード大学・アシュモレアン博物館、ならびに(株)欧亜美術から調査で御協力をいただいた。

以上本稿を借り厚く御礼申し上げます。

引用文献

- 1) Marshall, J. H.: Taxila, A) Vol. 2., pp. 493, 503, B) Vol. 2. Pl. 144, no. 62, 65, 97, C) Pl. 145, no. 75, 78, 79, 82 - 85, D) Pl. 144, no. 64 - 5, 68 - 9, 71, E) Pl. 144, no. 74, Pl. 145, no. 76 - 7, F) Pl. 145, no. 73, 80 - 1, 86, 88 - 9, G) Pl. 145, no. 92 - 94, H) Pl. 144, no. 66, 70, 72, Pl. 146, no. 106, I) pp. 494, J) Pl. 186, no. 417, K) Pl. 209, no. 21, L) Pl. 148, no. 1, M) Pl. 181, no. 209, Pl. 182, no. 208, 211, N) Pl. 145, no. 73, pl. 186 - no. 417, D) pl. 181 - no. 209, pl. 182 - no. 208, 211, F) vol. 1. Plates., Cambridge, 1975
- 2) Haarle, J. C.: Artefacts of the Historical Period from Bannu, 9th Intern. Conf. of the Assoc. of

- South Asian Archaeologists in Western Europe, 1987
- 3) Cribb, J., and Errington, E.: The Crossroad of Asia, Transformation in Image and Symbol in The Art of Ancient Afghanistan and Pakistan, A) pp. 152, B) Pl. 161, C) Pl. 162, Cambridge, 1992
- 4) Dar, S. R.: Toilet Trays from Gandhara and Beginning of Hellenism in Pakistan, Jarn. of Central Asia, Vol. 2 (2), Islamabad, 1979
- 5) Francfort H. P.: Les Palettes Du Gandhara recherches, Meoires de la D. A. F. A., Tome XXIII, Paris 1979
- 6) Hackin, J. R.: Nouvelles recherches Archelologiques a Begram (Ancienne Kapici) 1939-1940, Meoires de la D. A. F. A., Tome XI, A) Fig. 322, 324, B) Fig. 323, 325, C) Fig. 257 - 265, D) Fig. 419 - 430, E) Fig. 329, F) Fig. 274 - 320, G) Fig. 233, 660-68, Rencontre de Trois Civilisations Inde-Grèce-Chine, Paris, 1954
- 7) K.Parlasca: Greichish-romische Steinchalschen aus Agypten', 1983
- 8) 深井普二：ベルシャ古美術研究 2、p.153、吉川弘文館、1980
- 9) Mervat Seif-el-Din: Interactions in Art-India and Egypt-Influence and Interactions, Marg Pub. and Indian council for cultural Relations, pp.85-89, 1993
- 10) Bernard,P.: Fouilles d'Ai Khanoum IV.Le Monnaies Hors Tresors Questions d'Histoire Greco-Bactrienne., Mémoires de la D.A.F.A. Tome XXIV,pp.9- 20, Paris, 1984.
- 11) 日本放送出版協会：大英博物館 - 3,Pl.39,日本放送出版協会, 1990
- 12) Beazley, J.D.,Etruscan Vase-Painting, pp.211-215, Oxford, 1947
- 13) Wilfried S.:Weihrauch und Seide, Alte Kulturen an der Seidenstrase, A)Pl.126, B) Pl.127, 1996
- 14) Salvatore S.: The land of the Etruscans, from Prehistory to the Middle ages, Pl.146, Rome, 1985
- 15) Strong D.E.: Greek and Roman Gold and Silver Pl. A) Pl. 29B, B) Pl. 13 A, C) Pl. 14 A, 15 A, 15 B, 24 A, 24 B, D) Pl. 14 B, Pl. 19 A, E) Pl. 13 A, F)Pl. 36 A, 36 B G) Pl. 30 A, H)Pl. 43 A, 1966
- 16) Coomaraswamy,A. K.:La Sculpture de Bharhut, Fig.89, Fig.94, VANOEST,Paris, 1956
- 17) Marshal,J., and Foucher ,A.:The Monuments of Sanchi, Vol.3,Pl.75-90,1983
- 18) Fiorenzo C.:Monete Etrusche, A) Pl.8, B) Pl.18, Istituto Poligrafico e Zecca Dello Stato, Libreria Dello Stato, 1990
- 19) Paola Pelagatti et al.: La Civiltà degli Etruschi-Scavie Studi Recenti, エトルリア文明展、最新の発掘と研究による全体像、Pl.131、朝日新聞社、1990-1991
- 20) Ausden Schatzlammern Eurasiens Meisterwerke Antiker Kunst, held at Kunst haue Museum Zurich,A) Pl.91, B) Pl.93, C) Pl.95, D)Pl.52, 1993,
- 21) 松山俊太郎：古代インド人の装い、A)pp.34 - 35(1)、化粧と文化、昭和 56
- 22) 中村元、早島鏡正訳：ミリンダ王の問い、3.8.5 章、東京、平凡社、1964
- 23) Faccenna, D,Taddei.M.,Sculptures from the sacred area of Butkara II- Swat, W. Pakistan ,Reports and memoirs CLXVIII,Roma Istituto Poligrafico dello Stato,1962-1964.

注 釈

注 1 材質は片岩・Schist が代表的で、凍石・Steatite、Soapstone がつく。

注 2 仏語は、Palette、英語は Toilet Tray、Cosmetic Tray とも呼ぶ。

注 3 現在のアフガニスタンが古代バクトリアに相当する。その南部をインド・ギリク朝、北部はグレコ・バクトリア朝が支配し「漢書」の大夏を示す。

注4 ギリシャのヘロドトス(紀元前484～425年頃)が「歴史」に記したスキタイは、ペルシャ人がサカ(塞)と称した。

注5 デイオニソース(英語読み・バックス)は、葡萄と酒の神、女性からは野生的な狂乱の神として熱狂的な崇拜を受けた。デイオニソース、アプロディーテーが持つ性格は、ヘレニズム美術が持つ武勇・暴力・強奪に代わり、清純で牧歌的な愛と情熱をかき立てる内容がある。

ガンダーラの化粧皿は、このヘレニズム時代

の新しい気風を反映し、デイオニソースの場を表すのが多い(表1の66,89,98,100,150,153)。このデイオニソース信仰がガンダーラではほぼ確実に存在した。

注6 ヘロドトス著の「歴史」のなかでスキタイの起源神話に出てくる、黄金製の鋤・軛、戦斧、盃の三つの神器がある。

注7 サンスクリット語 Tilaka、ヒンディー語 tika、および lalatika と呼ぶ。